

22名の巣立ち

校長 中尾 善 登

3月16日(火)卒業証書授与式を挙行いたしました。心も体も立派にたくましく成長した9年生が学び舎を巣立っていきました。

県内の中学校の中ではおそらく一番遅い日程だったと思いますが、若桜学園では、毎年卒業式を県立高校一般入試の追試験日の翌日に設定しているのです。今年は、インフルエンザが流行しなかったため、県内でも一般入試当日を欠席し、追試験を受けた人はごく若干名だったようです。

今年の卒業生は、22名でした。おそらく若桜学園で最後の20名越えの学年なのかもしれません。最上級生として過ごした今年度、コロナの影響を受けていろいろなことが制約された9年生でした。全校遠足、運動会や学習発表会といった学校行事、部活動の大会やコンクール、修学旅行、最上級生として様々な場面で活躍できるはずでした。しかし、常に前を見続け限られた中でもしっかりとねらいや目標をもち、どんなことにも真剣に取り組んできた9年生でした。「なんで今年なんだ。」おそらくそんな不平を抱いた中3生や高3生は日本中にたくさんいたと思われますが、若桜学園の9年生は、いつまでも下を向くことなく自分たちのやるべきこと、できることをしっかりと見据えていました。制限がいろいろある中ででしたが最上級生としての姿を見せてくれて、確実に若桜学園を前進させてくれました。そして、下級生の憧れの的となっていました。9年生の姿勢、意欲、連帯感「つながり合い 高め合う」ことを大切にしてきた思いは、在校生にきっと受け継がれていくことと思います。

令和3年度若桜学園の児童生徒数は、今年度当初に比べ4名減り、1年から9年まで122名となる予定です。若桜町の皆様のご支援を今後ともよろしくお願いします。

4年ぶりに若桜学園「功労賞」を授与しました。受賞者は、卒業生の 井口 虎汰郎 君です。この「功労賞」は、学業成績の他、学校生活を通して他の模範となった生徒に授与しています。井口君は児童生徒会活動では、執行部の役員を連続して務め、部活動でも野球部部長として他の生徒をひっぱり、他校との合同チームの中でも主将としてチームをまとめ上げていました。また、積極的に駅伝部やスキー部の活動にも参加し、スキーのクロスカントリー競技では全国大会にも出場しました。たくさん友人があり下級生にも優しく接することができみんなから慕われています。縦割り活動で、下級生の良さを引き出すことに心がけ、ねらいが達成できるような活動を計画し実践してくれました。本当に模範となる生徒です。「功労賞」受賞おめでとうございます。

